



# じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

# OYA OYA 通信

## 学びのホームグラウンド じんけん楽習塾

報告 7/15 不安が排除にかわるとき  
～非常時から考える日常の差別～  
栗本敦子さん (Facilitator' s LABO くえふらぼ)

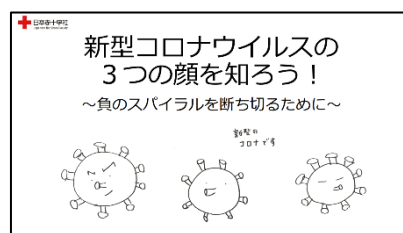
新型コロナウイルスの感染者が増えてきています。不安が増大するとき、差別や排除は起こりやすくなります。7月15日は、栗本さんをファシリテーターに、未知の病気が発見された時、総理大臣として、患者を隔離するかどうか、患者と住民の不安や、不安を解消するにはなど話し合いました。さらに、非日常から考える日常の差別としてどんな問題が起きているか考えました。今の時期だからこそ、考えなければいけないと強く思いました。



(李 (い) ぽんみ)

\*日本赤十字社 新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!  
～負のスパイラルを断ち切るために～

「新型コロナウイルスの3つの顔」で検索  
[http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326\\_006124.html](http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html)



### みんなのふりかえり

■問題を提起し、グループで考え合うと様々な意見交換が出来てよかった。

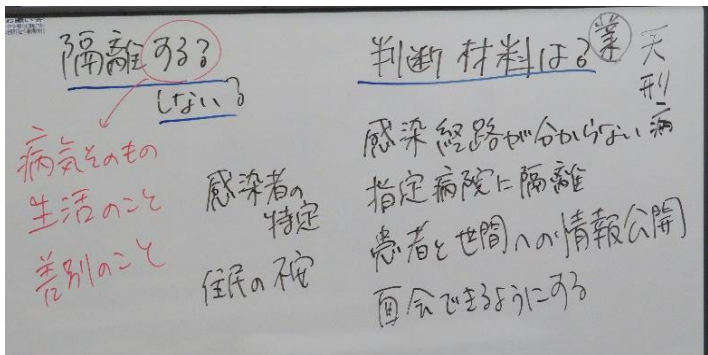
■日常生活の中では表出しない差別イシキについて、このコロナウイルス災禍の中で表出してきている。このイシキを変えるためにはどうすればいいのだろうか。第3の感染症をふせぐためにそのヒントがあるように思う。でも、かなり抽象的なひんどだが、今日のお話で少し具体に見えてきたような気がする。ありがとうございました。(なんとかでけへんかなあ)

■コロナウイルスの中で漠然と不安に思っていることがなぜ不安に思うのかということが少しわかったような気がしました。

■今の状況とすごくマッチした話だったと思います。私も病気について詳しいわけではないので、知らないことがたくさんあります。でも、誤った知識がひろがっていることを知って、正しく理解するべきだとわかりました。また、ジェンダーなど難しい問題はたくさんあ

**2020年度ルール**

参加	マスクにまけない
尊重	楽しく
守秘	自分のペースで
	ひとことしゃべる
	時間をわけあう
	しつこく追求しない



不安が排除に代わるとき③

わたしたちの社会が経験してきたこと

- 400年前 ペストの流行「ユダヤ人が持ち込んだ」と差別
- ハンセン病 「天刑病」「業病」と忌避
- 1931年 らい予防法で隔離を法で定める
- 1943年 特効薬プロミンの発見
- 1948年 無らい県運動 (→1956年には1万2千人が療養所に)
- 1996年 らい予防法廃止
- 2001年 ハンセン病国家賠償訴訟 原告勝訴
- 2019年 家族訴訟 原告勝訴
- HIV/AIDS 1980年代「エイズパニック」  
薬患者とそれ以外の感染者の分断  
HIVは「うつらない」U=U(Undetectable=Untransmittable)

りますが、一人一人が他人をうけいれることが大切だと思いました。

■今のコロナウィルスによって起きている差別や不安について、歴史から学ぶ必要があることを強く感じました。ペスト、HIV、ハンセン病などすべてがつながってくると思います。資料にあった「新型コロナウィルスの3つの顔を知ろう！」は自分も知っていましたが、確かに第3の感染症である「差別」への対処法については具体性がなく、書かれていないため、自分たちで考えていく必要があると思いました。(HAL)

■コロナが怖いから自身を守る為に、他者を攻撃するというのは戦争が起こる理屈と同じような気がします。(しみちゃん)

■前に同じワークをしたときは、ハンセン病のことが念頭にあったので、「隔離しない」をすぐを選んでたのですが、今のこの状態だと「隔離する」を選ぶんだなあ…と自分の変化に驚き…。そして「患者の不安は具体的」「住民の不安は抽象的」になるほどと思いました。半年間いろんなことがあっていろんなことを考えたはずだけど、忘れてることも多い…長されとるなーと反省しました。

■1月以降と言われて、ぼんやりと生きてきた時間を考えてしまいました。へんだな、いやだなという情報も人と共有しないと薄い感じで消えてしまうことを実感。出会って話すこと大切ですね。(オオタニ)

■今年3月以降、非日常な生活が続いていますが、自分たちの班は、子どもの権利についてこの数か月を振り返りました。ききなれない言葉などもたくさん出てきて、コロナの渦の中に子どもたちはどっぷりつかってしまっているのだなあと思った。一人の大人として、子どもたちの権利を守っていけるようこころがけていきたい。

■コロナや災害で不安や緊張が高まっている今、「当事者の声を聞かずに勝手に決めない」ように気をつけていきたい。感染症と人間の歴史とそこで起きてきた差別に学ぶことの大切さも気づかされました。

■「不安が排除にかわるとき」というタイトルがまさに今の社会状況にぴったりでした。お話の中で、不安はあいまいな部分が多く、解決の手立てが見つかりづらいということでしたが、学校現場においては、まず、子どもたちの不安をしっかりと受けとめ、そこからいっしょにはじめていきたいです。

■今、まさに、敏感になって考えていけないと思います。アンテナをはって注視するとともに、自分も情報をよく見て、“おかしいな” “流され

### 連絡

もし参加者の皆さんで宣伝したいチラシ等ありましたら、ご持参ください。毎回ふりかえり用紙をくばります。後でメールファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものはオープンにしません)

写真を撮影しますが、OYA OYA通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものと考えていますが、困るという方は事務局に申しつけてください。

ていないかな “と問いかけることが大切だと思いました。

■普段何気なく目にしている情報を改めて整理して考える中で、しっかりと準備をしておかなければいけないようなことが多くあり、今日のような時間が必要であることを再認識しました。「よく考える」ことを大切にいろいろな情報に接していきたいです。

■隔離するしないでは、悩みました。HIV、ハンセン病のことなど、忘れたらアカン。歴史についてあらためて考えさせられました。学校や社会(マスメディア)で歴史に学ぶということをしていかないといけないことを教えていただきました。(竹内たつお)

■コロナの流行など、非日常的な事態が起きた時に、どのような問題が起こるかグループワークを通すことで多くの発見ができました。答えがないがために多くの課題は出てくるけど、それぞれの立場になって考える、多くの人の意見を聞くことが解決の道になると思った。

■「隔離」という言葉に抵抗を感じ、二者択一できませんでした。ハンセン病等の経験に学ぶべきだが、ふだん無批判に受け入れてる情報に偏りがあがることに気づきました。不安な時には間違いを犯しやすいということに改めて気をつけたい。

